

313) あの頃の君に逢いたい

淋しさを僕に残して 雨の日は通りすぎてく  
ただひとり雨を見つめて うらぶれの<sup>とき</sup>時間をさ迷う  
思い出をたどって行けば <sup>さいげつ</sup>歳月は<sup>ぎやくまわ</sup>逆回りして  
<sup>いのち</sup>生命かけ君を愛した <sup>は</sup>あの頃に心は馳せる  
  
<sup>とき</sup>歳月を経てはぐれた記憶 <sup>つな</sup>ひとつずつ繋ぎあわせて  
<sup>あしおと</sup>蹠音を追いかけるよに 面影を心にさがす  
雨の中君の姿は ありありと像を結んで  
帰らざる<sup>とき</sup>歳月の<sup>かなた</sup>彼方の <sup>ほほえ</sup>微笑みと重なり合った  
  
こんなにも強く愛した 苦しみを君は知らない  
もしかして君に逢えたら この気持ちなんて話そう  
ひたむきに愛し続けた そのことを誇りに思い  
少年の心になって 君のこと抱きしめてたい  
  
<sup>ためいき</sup>嘆息が雨に打たれて あふれ出る涙に変わる  
君のこと思い続けて もういちどやり直せたら  
この憂い心に<sup>と</sup>綴じて <sup>えいえん</sup>永遠の愛をさがそう  
今夜見る夢でいいから あの頃の君に逢いたい